

授業

【「教師は授業で勝負する」と先輩の先生によくいわれた。情けないかな、いい授業ができずに、時ばかりが過ぎていった】

理科教師として初めて中学校の教壇に立ってから、30年以上経った。

授業力という言葉をよく耳にするが、私の授業力はどれほど上がったのだろうか。

「いたずらに 過ごす月日の 多けれど 道をもとむる 時ぞ少し」

と言ったのは道元禅師である。「教師は授業が命」である。自分の30年余を思うと恥ずかしくなるが、授業を思う時、私にはひとつ忘れられないことがある。

その頃の私は、楽しい授業をしたいと考えて、生徒が驚くような事象を見せ、自然界にある不思議さを伝えようと考えていた。なぜ、このようになるのか、できるだけわかりやすく、しかも楽しく説明しようとしていた。生徒は笑顔で私の話を聞き、授業を楽しんでいるように見えた。

ある日、二人の2年生が理科準備室にやってきた。特に理由もなく無駄話をしに来たようだった。なんとなく授業の話になった。一人の生徒が言った。「武田先生にはわるいけど、M先生の理科の授業は楽しかった。」

M先生とは、その生徒たちを1年生の時に教えていたベテランの先生である。新米である私がM先生よりも楽しい授業ができるはずもないのだが、なんとなく悔しくて私はその生徒に尋ねた。

「どんどころが楽しかったんだ？」

その時のその生徒の言葉が忘れることができないのである。

「M先生の授業は、自分たちで予想を立てたり、話し合ったり、実験したり、何か自分たちで進めているなあ、と感じてとても楽しかった。」

私は「楽しい授業」というものを、全く勘違いしていた。そのことを生徒に教えてもらった。授業は、常に生徒側から発想し、構成しなければならない。しかし、「楽しい授業」は常に遠くにあり、私は少しでも近づけたのだろうか。頑張ったつもりだが、つもりではいけないのだろうか。